



京都市
CITY OF KYOTO



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

<報道発表資料>

(大学同時)

令和8年7月17日

京都市総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当
公益財団法人大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部

令和8年度「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業 (スタンダード枠)」認定式の開催

～大学・学生と地域が『コラボ』して実施する取組に支援金を交付し、応援します～

この度、大学・学生と地域が『コラボ』して京都のまちづくりや地域の活性化に取り組む企画・事業に支援金を交付し、取組を支援する「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業（スタンダード枠）」について、支援事業の認定式を開催します。

【背景と目的】

平成16年度から、京都市と（公財）大学コンソーシアム京都との協働により、京都のまちの活性化に向けて、大学・学生と地域住民との連携・協働を更に広げるとともに、地域に貢献しながら学生が学ぶ機会を創出すること、さらには地域での活動を通じ、学生の地域への愛着を醸成し、卒業後の京都への定着につなげることを目的に、地域と連携した取組を行う学生団体に対し、活動に要する経費を支援金として交付しています。

【認定式概要】

令和8年4月1日から5月30日にかけて事業を募集し、24団体から応募があり、選考の結果、16事業を支援事業として認定し、以下のとおり認定式を開催します。

- 日時
令和8年7月25日（土）午後2時～2時45分
- 場所
キャンパスプラザ京都 2階 ホール
(〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939)
- 主な出席者
 - 認定事業の実施団体（学生、大学関係者等・16団体）
 - 京都市長
 - 学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業 企画・選考委員会委員（6名）
- 次第
 - (1) 開会
 - (2) 出席者の紹介
 - (3) 企画・選考委員会委員長挨拶



京都市
CITY OF KYOTO



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

- (4) 認定証の授与
- (5) 市長挨拶
- (6) 閉会 （※閉会后、記念写真の撮影を行います。）

○ 認定事業(16団体)

別紙「認定事業一覧」を参照ください。

○ これまでの流れと今後の予定

令和8年 4月 1日 募集開始
5月30日 募集締切
6月16日 第1回企画・選考委員会（第1次審査（書類審査））
6月28日 第2回企画・選考委員会（第2次審査（プレゼンテーション））
7月25日 認定式
令和9年 3月下旬 成果報告会

・【参考】令和8年3月26日付け報道発表

令和8年度「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業」（スタンダード枠）の募集

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000351819.html>

<お問合せ先>

「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業」事務局

公益財団法人大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業担当

住所：京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

電話：075-353-9130 FAX：075-353-9101

（日・月を除く午前9時～午後5時）

令和8年度 学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業（スタンダード枠）

認定事業一覧（申請順）

NO	事業名	団体名 【関連大学名】	新規 ・ 継続	活 動 行政区	事業概要
1	「Kyoto Napkin Media (KNM)」～紙ナプキン広告を活用した、学生と地域コミュニティの再接続～	ボックス BoCS 【京都大学】	新規	左京区	京都市内の飲食店と連携し、食事中の視認性が高い紙ナプキンを利用して地域情報や独自コンテンツを発信することで、既存の SNS では届かなかった層への情報伝達を行い、学生の地域参画を促す。
2	カモシネマ 21	カモシネマ 21 実行委員会 【立命館大学】	継続	左京区	鴨川の河川敷を舞台に、環境美化活動、地域交流、文化体験、映画の野外上映を組み合わせた参加型イベントの開催を通じ、多世代のふれあいの場の創出や、SDGs・環境教育への理解促進を図る。
3	ギフテッドプロジェクト ASOBI-BA(アソビバ)	京都教育大学インクルージョンゼミ 【京都教育大学】	新規	全区	ギフテッド特性を持つ児童を対象に、遊びや体験活動を通じた居場所づくりを行うとともに、保護者同士が交流できる場を設け、地域コミュニティとのつながりを創出する。
4	京北活性化計画	タクミラジュリク 【嵯峨美術大学】	継続 ＊	右京区	京北地域の活性化に向け、学生が制作したキャラクターや路線図を活用しながら、地域のイベントに積極的に参加し、地域住民との交流を深めるとともに、各イベントのドキュメンタリー映像を撮影・発信することにより、交流人口の拡大を目指す。
5	京フットパス in 久多	龍谷地方創生プロジェクト 【龍谷大学】	新規	左京区	地域住民と学生や観光客が交流しながら久多の魅力を体感できるフットパスイベントを開催。地域を歩いて回ることで、歴史や自然、文化を学ぶとともに、地域住民との交流を通して、地域の魅力発信、関係人口の創出を図る。
6	子ども食堂「あかつき」	子ども食堂「あかつき」 【京都産業大学・大谷大学】	新規	左京区	左京区の老人福祉施設を拠点に、教職課程等の学生が主体となり、月1回子ども食堂を開催。他の学生サークルや地域団体等と連携し、食事の提供に加え、宿題サポート等の学習支援やワークショップ、多世代交流イベントを実施する。

NO	事業名	団体名 【関連大学名】	新規・継続	活動行政区	事業概要
7	京北宇津ふれあい学びあい	京北宇津宝さがし会 【京都精華大学・京都外国語大学】	継続	右京区	宇津地域の活性化に向け、学生と地域が協働でお祭りや子ども向けイベントを開催し、SNS等により情報発信することで、関係人口の創出を図る。中高生の居場所づくりを目的とした「宇津寺子屋」や映画上映会などの開催を通じ、地域の多様な世代と交流する。
8	佛教大学オレンジプロジェクト	二条ともいき倶楽部 コネ みやcone 【佛教大学】	新規	中京区	認知症の方と学生、地域が協働して交流・啓発イベントを企画・実施することで、認知症の方の社会参加の機会を広げるとともに、認知症への理解を深め、共に支え合う地域づくりの実現を目指す。
9	「日本のハリウッド」を再びー太秦・大映通り商店街を舞台にー	ポップコーン 太秦 Popcorn!!!! 【嵯峨美術大学】	継続	右京区	太秦の大映通り商店街との協働により、映画、時代劇にまつわるイベントや、子ども向けの対話型スタンプラリーを開催し、映画のまちの魅力発信、商店街の活性化を図る。
10	音でつなぐ「次」の一乗寺プロジェクト	「街と人と音楽と」ゼミ 【京都精華大学】	継続	左京区	一乗寺の地域活性化イベントの企画・運営を通して地域住民と訪問者の両方に一乗寺の魅力を発信する。子ども向けの音あそびワークショップや、一乗寺公園での「一乗寺フェス秋まつり」の実施、地元に伝わる鉄扇踊りの活動を行う。
11	子どもの居場所づくりプロジェクト	スマイル アップ Smile ↑ ↑ ↑ 【龍谷大学】	継続	伏見区	子どもたちが小さな不安や悩みを安心して話せる居場所をつくるため、児童公園で月1回開催する駄菓子屋プロジェクトや、地域の施設での交流活動を通じ、学生が対等で話しやすい存在として関わることで、安心して過ごせる地域づくりを目指す。
12	子ども居場所支援プログラム	アポロン 学習支援団体Apolon 【立命館大学・京都府立大学・大阪学院大学】	継続	中京区	中高生を対象とした学習会をはじめ、季節のイベントや、働くことへの理解を深める工場見学の実施など、様々な機会での学生との交流を通して、子どもが安心できる居場所の提供や、地域全体で子どもの成長を支える環境づくりに取り組む。

NO	事業名	団体名 【関連大学名】	新規・継続	活動 行政区	事業概要
13	都ライト'26	都ライト実行委員会 【京都産業大学・京都 工芸繊維大学・龍谷大 学・立命館大学】	継続	上京区	西陣の京町家ライトアップ等のイベントを通じ、暮らしや伝統文化の魅力を地域内外に発信することで、町家の保全・継承への関心や愛着を高めるとともに、地域と学生との繋がりを深めていく。
14	流れる記憶、つながる白川 ― 地域の生活文化を通じた世代間 交流プロジェクト―	チーム ダイハチ team daiハ 【京都大学大学院】	新規	東山区	粟田学区において、地域に根付いた生活文化と水とともにあった暮らしの記憶を共有し、新たな地域交流の機会を創出する。かつて行われていた友禅流しをモチーフにしたイベントや、粟田焼の金継ぎ、お茶会等を開催し、地域の魅力を発信する。
15	～捨てない選択、つむぐ暮らし ～下京循環プロジェクト	サーキュリンク Circulink 【同志社大学】	新規	下京区	下京区の環境配慮型店舗や容器・衣類等回収拠点を掲載するエコマップを制作し、イベント等で配布することで、資源循環の選択肢を可視化。地域での不要衣類を活用したアップサイクル・ワークショップの開催等により、環境意識の向上、地域の交流促進を図る。
16	空き家改修拠点を 用いた地域交流 拠点の運営と 防災自治活性化 事業	キョウビ KYOBI建築研究会 【京都美術工芸大学】	継続 ＊	東山区	今熊野地区で、学生が空き家を改修した拠点到に居住しながら一部を地域に開放し、交流の場を創出。地域住民とともに防災訓練や見守り活動に取り組み、顔の見える関係を築くことで、防災自治の活性化と関係人口の拡大を図る。

※(新規・継続の「＊」は、トライアル枠からの継続)